

# 白馬村

## 第22回 青少年育成村民大会 第35回 社会福祉大会

令和4年 10月22日（土）

13:30～15:30（受付 13:00～）

白馬村ウイング21文化ホール

- ・ 白馬中学生による意見発表
- ・ 社会福祉表彰
- ・ 講演「みんながつくる みんなの学校」

～すべての子どもの居場所を地域の学校に～

講師 木村 泰子 氏（大阪市立大空小学校 初代校長）



大阪府生まれ。2006年に開校した大阪市立大空小学校の初代校長を9年間務める。大空小学校では「すべての子どもの学習権を保障する」という理念のもと、教職員や地域の人たちとともに障害の有無にかかわらず、すべての子どもがいつもいっしょに学び合っている。2015年には大空小学校の1年間を追ったドキュメンタリー映画「みんなの学校」が公開され、大きな反響を呼んだ。この映画は文部科学省の特別選定作品にも選ばれ、現在も全国各地の教育現場などで自主上映されている。2015年春に、45年間の教員生活を終え、現在は講演やセミナーで全国の人たちと学び合っている。

入場  
無料

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、マスクの着用と検温・消毒にご協力ください、  
要約筆記がつけます。（聴覚に障がいのある方や聴こえに不安のある方に、音声情報を文字で伝える通訳です）

10月19日（水）に映画「みんなの学校」の上映会を開催します。詳細は裏面をご覧ください。

主催：白馬村青少年育成村民会議、白馬村、白馬村教育委員会、白馬村社会福祉協議会

共催：白馬南小学校 PTA、白馬北小学校 PTA、白馬中学校 PTA、白馬高等学校 PTA、白馬村区長会、白馬村民生児童委員協議会

■お問い合わせ

白馬村教育委員会事務局 生涯学習スポーツ課 TEL：0261-85-0726 E-mail：gakushu@vill.hakuba.lg.jp

白馬村社会福祉協議会 TEL：0261-72-7230 E-mail：syakyo@vill.hakuba.lg.jp



大空は  
明日へつづく

# みんなの学校

出演：大空小学校のみんな

監督：真鍋俊永 ナレーション：豊田康雄 企画：迫川緑 プロデューサー：中尾雅彦 加藤康治 兼井孝之  
撮影：大塚秋弘 撮影助手：堀貴人 編集：北山晃 編集協力：秦岳志 整音：中嶋泰成 音響効果：萩原隆之 題字：谷真史  
製作：関西テレビ放送 配給：東風

2014年 | 日本 | 106分 | BD・DCP | ドキュメンタリー © 関西テレビ放送

minna-movie.com

- 平成25年度 文化庁芸術祭賞 大賞
- 2013年 日本民間放送連盟賞 優秀賞
- 第9回 日本放送文化大賞 標準グランプリ
- 第21回 坂田記念ジャーナリズム賞
- 第51回 ガラクシー賞 テレビ部門 選奨
- 第67回 日本映画テレビ技術協会 映像技術賞
- 第33回 地方の時代映像祭 優秀賞

ふつうの公立小学校のみんなが笑顔になる挑戦  
不登校も特別支援学級もない 同じ教室で一緒に学ぶ

(C) 関西テレビ放送

文部科学省特別選定



## すべての子供に 居場所がある学校を作りたい。

大空小学校がめざすのは、「不登校ゼロ」。ここでは、特別支援教育の対象となる子も、自分の気持ちをうまくコントロールできない子も、みんな同じ教室で学びます。ふつうの公立小学校ですが、開校から6年間、児童と教職員だけでなく、保護者や地域の人のもいっしょになって、誰もが通い続けることができる学校を作りあげてきました。

すぐに教室を飛び出してしまう子も、つい友達に暴力をふるってしまう子も、みんなで見守ります。あるとき、「あの子が行くなら大空には行きたくない」と噂される子が入学しました。「じゃあ、そんな子はどこへ行くの？ そんな子が安心して来られるのが地域の学校のはず」と木村泰子校長。やがて彼は、この学び舎で居場所を見つけ、春には卒業式を迎えます。いまでは、他の学校へ通えなくなった子が次々と大空小学校に転校してくるようになりました。

## 学校が変われば、地域が変わる。 そして、社会が変わっていく。

このとりくみは、支援が必要な児童のためだけのものではありません。経験の浅い先生をベテランの先生たちが見守る。子供たちのどんな状態も、それぞれの個性だと捉える。そのことが、周りの子供たちはもちろん、地域にとっても「自分とは違う隣人」が抱える問題を一人ひとり思いやる力を育てています。

映画は、日々生まれかわるように育っていく子供たちの奇跡の瞬間、ともに歩む教職員や保護者たちの苦悩、戸惑い、よここび……。そのすべてを絶妙な近さから、ありのままに映していきます。そもそも学びとは何でしょう？ そして、あるべき公教育の姿とは？ 大空小学校には、そのヒントが溢れています。みなさんも、映画館で「学校参観」してみませんか。

驚いた！ ここには、ありのままの公立小学校の魅力が、大胆に惜しみもなく躍動している。人間が発達可能体であることを、限界なしに教えてくれる。それにしてもスゴイ記録映画が完成したものである。学校と教育の未来に、希望が満ち映画である。

——尾木直樹（尾木ママ）教育評論家

一緒に学ぶという選択肢を  
考えられなかった人たちに、  
こんな方法もあるんだということを知ってほしいと思います。

——20代・女性（大学院生）

平成25年度（第68回）文化庁芸術祭大賞 受賞理由  
他の地域では厄介者扱いされていた転校生が、教師と同級生、そして地域が包み込むことで、素直で心優しい子供に成長していく姿は、見ている者の心を熱くする。大空小学校の試みは、上からの教育改革とは一線を画す、現場からの教育改革でもある。

子供たちひとりひとりが能力に応じて大切にされていること、手がかる子もかからない子もいるけど平等に愛されていること、そういう学校が地域の中で理解されて存在していること、それらのことにとっても感動しました。

細川紹々（漫画家・イラストレーター）

映画「みんなの学校」上映会  
日時：2022年10月19日（水）13:30～／18:30～  
会場：白馬村 ウイング 21 文化ホール 字幕あり

